

昭和十四、五年（一九三九、四〇）頃 絹本着色
一三六・五×七〇・六

案本一洋（一八九三～一九五二）は、京都市立絵画専門学校卒業後に山元春拳の早苗会で学び、春拳没後も同門の川村曼舟に師事した。円山四条派の流れをくむ春拳、曼舟に習いながらも、一洋はその様式から早々に脱して師とは別の道を歩み、生涯をかけて王朝の風俗を題材としたやまと絵を描き続けた。一洋は官展および早苗会展を中心に活躍したが、いずれの展覧会にも色鮮やかで典雅な雰囲気を持つ近代的やまと絵作品を出品し、高い評価を受けている。

そうした中で、昭和十四、五年頃に作者より昭和天皇へ献上されたとの来歴をもつ本図は、一洋としては大変珍しい仏教的主題の作品である。不動明王を象徴する俱利伽羅龍が巻き付いた三鈷剣が大きく描かれ、その両脇

には矜迦羅童子と制叱迦童子が付き従う。不動明王二童子像の図様を引き継ぐ形ではあるが、画面の手に調伏祈禱のための護摩壇を描くところは、仏画の図像的制約にとられない目新しさを感じさせる。胡粉で具引きした柔らかな白色の地に、日本の白描画の伝統を感じさせる肥瘦をつけない描線でモチーフを表している。不動明王の背後では金砂子の煌めきをもたせて迦楼羅炎が赤々と燃え上がり、その鮮やかさを際立たせるように、金泥を刷く他はごくわずかに彩色を施すのみである。こうした最小限の描写と彩色の中にも確かな装飾性を感じることができ、抑制のきいた美しい一本一本の描線をみても、作者の本質がやまと絵様式にあったことが理解される。



- ・各展覧会図録中，作品名や作者，制作年などの表記は，図録発行当時のものです。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録の著作権はすべて宮内庁に属し，本ファイルを改変，再配布するなどの行為は有償・無償を問わずできません。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録（PDF ファイル）に掲載された文章や図版を利用する場合は，書籍と同様に出典を明記してください。また，図版を出版・放送・ウェブサイト・研究資料などに使用する場合は，宮内庁ホームページに記載している「三の丸尚蔵館収蔵作品等の写真使用について」のとおり手続きを行ってください。なお，図版を営利目的の販売品や広告，また個人的な目的等で使用することはできません。

古典再生 — 作家たちの挑戦

三の丸尚蔵館展覧会図録 No. 72

編集 宮内庁三の丸尚蔵館

制作 株式会社 東京美術

翻訳 黒川廣子

発行 宮内庁

平成二十八年三月二十六日発行

© 2016, The Museum of the Imperial Collections, Sanmomaru Shozokan